

第3回 横浜市都心臨海部再生マスタープラン審議会会議録	
日 時	平成 26 年 6 月 23 日（金）10 時 00 分～12 時 00 分
開 催 場 所	市庁舎 5 階 関係機関執務室
出 席 者	新井 鷗子、池邊 このみ、金子 修司、齋藤 貢一、佐々木 葉、佐土原 聡、鈴木 伸治、藤野 次雄、森地 茂、山下 真輝（10 名） ※敬称略
欠 席 者	中村 文彦、矢ヶ崎 紀子、湯浅 真奈美（3 名） ※敬称略
開 催 形 態	公開（傍聴人 7 人）
議 題	1 横浜市都心臨海部再生マスタープランについて 2 その他
決 定 事 項	特になし
議 事	<p>（1）横浜市都心臨海部再生マスタープランについて</p> <p>【事務局】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・皆様おはようございます。それでは、定刻になりましたので、第3回横浜市都心臨海部再生マスタープラン審議会を開催させていただきます。委員の皆様におかれましては、ご多忙の中、お集まりいただきありがとうございます。横浜市都市整備局企画部長の小山でございます。どうぞよろしく願いいたします。まず配布資料の確認をさせていただきます。資料は全部で次第と資料1から4、それと参考資料1となっております。順番にご確認をお願いいたします。まず次第でございます。その次に、資料1「横浜市都心臨海部再生マスタープラン審議会委員名簿」、資料2「第3回横浜市都心臨海部再生マスタープラン審議会座席表」資料3「横浜市都心臨海部再生マスタープラン（仮称）検討資料」、なお検討資料3の参考といたしまして、第1回、第2回審議会でのご意見を項目別にまとめました、アイデア集を添付しております。こちらについては、引き続き、今後の審議会でのご意見を踏まえまして、追加分類を見直してまいりたいと考えております。次に資料4、「概要版 横浜市都心臨海部再生マスタープラン（仮称）」でございます。こちらにつきましては、市民意見募集用の概要版パンフレットとなっております。後ほど、またご説明させていただきます。最後に、参考資料1「第2回審議会の会議録」でございます。こちらにつきましては、各委員の方々にメールにて確認をさせていただいたものとして、ご報告させていただきます。以上でございますが、何か質問はありますでしょうか。 ・それでは、次に、本日の審議会でございますが、委員13名のうち10名の委員にご出席をいただいております。審議会条例第5条の2の規定に基づきまして、委員の半数以上の出席をいただき、定足数を満たしておりますので、当審議会は成立しておりますことをご報告させていただきます。また、当審議会におきましては、横浜市の保有する情報の公開に関する条例、および横浜市附属機関の設置および運営に関する要綱に基づきまして、公開での開催となっております。会議室内に傍聴席と記者席を設けておりますので、ご承知おきください。会議の

模様を記録するために、事務局側で写真を撮らせていただきますので、あらかじめご了承下さい。なお、一般の傍聴の方の撮影につきましてはご遠慮いただきますようお願いいたします。

- ・それでは、議事に入りたいと思います。これより先の進行につきましては、審議会条例第4条の3に基づきまして、森地会長をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

【森地会長】

- ・おはようございます。早朝からお集まりいただき、ありがとうございます。早速議事に入りたいと思います。事務局からご説明をお願いいたします。

【事務局】

- ・資料3の説明。

【森地会長】

- ・どうもありがとうございました。皆様のご意見を入れて、随分と改善されたのではないかと思います。パブリックコメントに出すということで、今日またいろいろな方面からご意見が出るかと思っています。
- ・パブリックコメントを出すとき、この資料（資料3）はホームページか何かに載るのですか。

【事務局】

- ・近日中には、ホームページに委員会資料として出します。パブコメのときは、そこにリンクを張るようなかたちで、どなたでもご覧いただけるようにしたいと思います。

【森地会長】

- ・英語版はつくるのですか。すぐでなくて良いけれど。

【事務局】

- ・英語版については、準備がございません。

【森地会長】

- ・やったほうが良いですね。企業誘致だとか、観光客だとか言っているのだから。で、英語は、そのまま翻訳屋に出して、訳したりしないで。

【事務局】

- ・外国版につきましては、パブコメが終わって、これがとりまとまった後のマスタープランとして出来たものの概要版とかを、そのときに検討したいと思います。

【森地会長】

- ・わかりました。そのときには、ここ（資料3）にある内容は入るのですか。

【事務局】

- ・これ（資料3）自体をマスタープランとして。

【森地会長】

- ・ああ、これ（資料3）自体をマスタープランとして。わかりました。
- ・いかがでしょうか。どうぞ。

【金子委員】

- ・それでは、質問させていただきます。今のお話で、とりあえず、資料4のことについて、もう少しお聞きしたいのですが。パブコメを募集するときに、資料4をベースにして、お願いすると。今、最後のところに、関連情報と、はがきの点線がありますけれども、求めるパブコメの内容、意見募集の項目といたしますか、項目出しはもう決まっているのですか。

【事務局】

- ・全体につきまして、フリーに、自由にご意見を書いていただきたい、というところでございます。

【金子委員】

- ・フリーに書いていただくと。選択肢があるということではなくて。

【事務局】

- ・はい。この自由意見募集欄というかたちで、自由にご意見を書いていただきたいと考えております。

【金子委員】

- ・それは大変良いことだと思いますけれども、そうなりますと、なおのこと、例えば資料4のペーパーで、どれ位の意見が出るか、私は大変に不安に思うのです。ですから、是非、これを補完する、ホームページを見て書いていただくなり、ということがあるにしても、十分な情報が伝達できる手法を考えていただきたいと思います。

【森地会長】

- ・ありがとうございます。

【鈴木委員】

- ・この全体の構成について、まず少し質問させていただきたいのですが。このプラン自体は、都心臨海部再生マスタープランという位置づけで、それに基づいているプロジェクトであり、あるいは上の政策の部分、川上側をつなぐ位置づけだと思うのですが、そういう意味で言えば、ポリシーとプランをつなぐところがですね、ちょっとよく見えないなど。基本戦略の1、2というのがあり、それがこの川上側をつなぐイメージなのか。もし政策面とつなげるという意味でいえばですね、私はこの施策③次世代の環境づくりのところは、もっと政策として打ち出すべきで、基本戦略の中に環境が入っていないのは、よく分からないなどという感じがいたします。
- ・もう一つは、施策の中で、プロモーションについての言及がなく、どちらかというとハードに偏ったプランになってはいないだろうか。広域的に人を集めていくということ、これからやっていかなければいけない中で、そういった都市のプロモーション、人を呼び込むプロモーション、投資を呼び込むプロモーションが、施策の柱として立っていないというので良いのだろうか、というのが一点。
- ・もう一点は、施策の②③④あたりは、大体どこの部署が取り組むかは透けて見え

るのですが、①はですね、これはどこがどう取り組むのかが、あまりはっきりとは見えない。文化観光局が取り組むとか、都市整備局が取り組むだとか、その辺りがはっきりと見えにくい構造になっている。私は、個人的には、都市デザインというのを、ここで、せっかく四十数年取り組んできて、社会的にも高く評価されているわけですから、きちんとここで位置づけていただきたいなと思います。以上です。

【森地会長】

- ・ありがとうございます。

【事務局】

- ・施策と基本戦略の関係である、12ページに触れていただきまして、鈴木先生からのご指摘である、環境のところを基本戦略として考えていくということですが、再度精査して、単語がつくようにはしたいと思います。

【鈴木委員】

- ・交通関係の先生方がいらっしゃる中で言うのも何なのですが、パリのヴェリブも、単体であるわけではなくて、環境の大きな目標があって、大きな政策の転換があって、それに向けて、ヴェリブやカーシェアリングというものが、総合的に動いているというわけです。施策のところ、回遊性を強化するという中でコミュニティサイクルが位置づけられるだけでは、やる根拠としては非常に薄いのですね。そういう意味では、戦略として環境を前面に押し出したまちづくりをやる。で、車を出す、公共交通を中心にやるという目標が掲げられていて、初めて回遊性の強化というものが、環境とホスピタリティ、両方に跨って進めるという方針が出来上がる気がいたします。

【森地会長】

- ・ありがとうございます。どちらに位置づけるかということですね。どうぞ。

【池邊委員】

- ・一つは、外国人の方がいらっしゃるとか、いろいろなことを考えたときに、食文化というものがここには全く出てこなくて、横浜というのはもちろん中華街もありますけれども、食文化が職住接近で、アフターシアターだとか、あるいは文化施設のところの近くに来て、そういったものが、ビルの中ではなく、平面的なところで楽しめるものなのではないかと。
- ・あと、私どものやっている、環境の話からすると、農の部分が非常に近くて、地産地消のものが食べられるという意味では、このホスピタリティの中に、食文化というのが大きくここに要るのではないかと思います。これは、日本人は昔からよく抜いてしまうのですけれども、海外では2時間位かけてランチもディナーも食べることが普通になっています。国際会議でもそういうふうなかたちになっていますから。ちょっと出たところに、弁当ではなく、ワインが飲めて、おいしいものが食べられる、ということが望まれているのではないかと思います。
- ・それから、海外の中で、都市を測る指標みたいなものを、私も少し研究している

のですけれども、そういうものの中で、やはりヘルシーなライフスタイルと、ハッピーな生活が、描けるかどうかがあります。特に、これは近未来ではなく2050年ですよね。そういった中で、この都市に住む方々が、東京では得られないような、ヘルシーでしかもハッピー、最近ですと特に心、子供のこともそうですが、働く人の健康ですとか。横浜に勤めた理由、横浜に本社がある理由は何なのか、あるいは研究者の様々な研究施設、海外では非常に開かれた研究施設があるのはご存知かと思いますが、そういった風な施設を考えると、もう少しヘルシーでハッピーなライフスタイルというものが、雇用者も、あるいは子供の教育においても、人間の心と体の健康が得られるようになると良いのではないのでしょうか。

- ・あと最後、これは質問に近いのですが、横浜ブランド、一応皆さんも共有しているのかもしれませんが、ここだと10ページに最初に出てきて、この後11ページに、「横浜ブランドを強力に発信します」とありますが、横浜ブランドとは具体的に何を言っているのかを、どこかに。いろいろな横浜ブランドがありますけれども、今回、これから強調して、2050年に向けて、しかもこの臨海部で展開していく横浜ブランドというものが、一体何なのかという辺りを、明確にした方が良いのではないかと思います。

【森地会長】

- ・どうぞ。

【新井委員】

- ・資料4の、皆様の意見を募集しますという冊子の、市民の方々が一番身近に感じられるであるかもしれないであろう、この市民参加による持続的な価値とコミュニティづくりの図が抽象的で、市民にとっては分りづらいのではないかと。もちろん限られたスペースだから仕方ないとは思いますが、市民の方々にとっては、自分達の周囲の環境がどうなるのかが一番関心が深く意見も述べやすいのではないかと思いますので、例えば、ここにあるような施設をどう利用するか、もう少し具体的にして、市民の方々がイメージしやすいものにすると良いのではないかと思います。

【森地会長】

- ・ありがとうございます。

【佐々木委員】

- ・非常に丁寧にまとめていただいていると思うのですが、4ページのところに、これまでのまちづくりの中に、「その時代の要請に応えられるよう進取の気概を持ち」といって。二つの時代にはそれぞれ、要するに、開港時には城下町でも何でもなかったところに新しい国であったり文明をつくり挙げていった進取の気概があり、60年代以降は、都市デザインというキーワードで、首都高速道路を地下に埋めるという、誰もやらなかったような、人の目線からの都市のあり方を考えるという進取の気概で、戦後のまちづくりをしていったということだと思いま

す。で、その都心マスタープランにおける進取の気概が、どこに表れているのだろうかというのが、私の目からは分りづらくてですね。今必要なことを積み上げていくと、こういう形にきれいにまとめられると思うのですが、何かもう一つ、論理的には、明確な根拠があって実現可能なもの、というのは難しいかもしれないけれども、進取の気概というコンセプトが表れないものかなと思います。

・例えば、今も健康でヘルシーでハッピーとか、環境という話があったり、市民が主体になっていくとかの意見がありましたが、内容としては入っているのですが、それを基本戦略のところに堂々と掲げることは出来ないのだろうか、と思うのですね。例えば、本当に、人も社会も環境も持続的であるための方策に取り組む、ということであったり、困っている人を徹底的に助けていく、というポリシーに基づいて施策を展開するとか、今の時代に本当に求められているものを解決する、進取の柱というものが、何となく散りばめられてはいるのですが、それを、12ページの、基本戦略の1と2というところに、もう一つ掲げることで、随分とメッセージ性が強くなるのではないのかなということ、まず思いました。それが、全体の構成に関して思うところです。

・で、あとは、今申し上げたことと関わるかもしれませんが、徹底的に第三次産業の話になっていて、この都心臨海部で第一次産業や第二次産業の話を持ち出すのは、とてもナンセンスなものと思われるかもしれませんが、それはここで農業という産業が持続できるとか、また工場が立地するというのではなく、自然から資源を得ること、あるいはその資源を加工していく、という自然との付き合い方が第一次産業であり、人間が自らものをつくっているということに向き合うということが、第二次産業だと思うので、そういうスピリットを踏まえた上での、これからの地域のインフラであり、空間であり、人づくりであり、産業であり、そういう風になっているのかな、というのが、私は考える次第です。

【森地会長】

・ありがとうございます。多分、今まではゲートウェイという位置づけだったものを、世界都市になります、というものが一番のメッセージだったはずですが。あまり伝わらないのだとすると、どうしたら良いのか考えた方がいいですね。で、世界都市としての競争力には、生活やいろいろな視点からの競争力がある、という構成になっているはず。だから、順位があり、冒頭に世界都市になります、という言葉が出ていたのですけれども。委員にも伝わらないのだから、市民にも全く伝わらないでしょう。

・それから、農業の話は、ここでもあると思います。植物工場とかね。それが食とつながって、とかね。それから、一気に開発するわけではないので、ずっと空いている土地があるのですね。そういうところで、研究者とか、研究開発を集めていく、とか。こういうアイデアは、次のステップなのですよね。

・先ほど鈴木先生がおっしゃったように、ポリシーと繋がっていないよね、というと、確かにそう。例えば、デザインとか生活とか、書いてあるのだけれども、メ

ッセージ性が弱くて。どこかには書いてあるのだけれども。今までやっている政策がありますよね。企業誘致であったり、デザインであったり。それに更に付け加えて、こういうことやりますとかいうアイデアは、この（資料3）の後に来るのですよね。今までやってきた政策だとか、これからやろうとする方法を、つけますかね。この文章の中に一杯入れてしまうと、そればかりになってしまって、逆に埋没してしまいそうになるし。ちょっと、どうするか。

【事務局】

- ・今いただいたご意見の中で、一つは、基本戦略のところは見直しをしようかなと思います。鈴木先生が仰られた環境の話もありますし、ポリシーであるとか、確かに、単語としてはいろいろと今までも出てきているものを、基本的な考え方としてまとめて出した方が、見る側には分かりやすいところもありますので、基本戦略のところは見直したいと考えております。

【森地会長】

- ・どうぞ。

【佐土原委員】

- ・環境の話になりますが、ここで取り上げている環境というものが、この都心臨海部の中だけで完結することになってしまっている。本来環境というのは、いろいろな繋がりの中で、都市の部分でいろいろな対策をやるのが、実は、例えば、横浜の水源地は富士山のところですが、水源地の整備とどう関わってくるのか、ですね。あるいは、CO2も地球規模の問題でありますし、都市間の競争の中で、横浜がやっているものを他の都市が見習って、そういういろいろな繋がりの中で捉えていかなければいけないものだと思います。是非戦略のところ、環境をもう一度取り上げてという話がありましたので、ここだけで完結するのではなくて、都市が変わらないと、解決がつかない環境の問題の広がりということを考えて、食料の問題、あるいは森林資源の問題、水の問題、エネルギーの問題、それらを広がりを持った視点で取り上げたマスタープランにしていきたいと思います。
- ・それから、環境での取り組みというものが、施策の①②③の横並びになっていますけれども、実は縦と横の関係で、もう少し整理しないと、どうしても切れてしまうところがあります。先ほどの交通との関わりを鈴木先生が仰いましたけれども、交通もそうですし、エネルギーもそうですし、ビジネスにも展開するというのを考えると、環境というものは、これからは横軸どうか、そういう捉え方で位置づけながら、相互の関連を見ていくという整理をした方が良いのではないかと思います。
- ・あと一点、3ページのあたりで、首都圏における横浜の位置づけが書いてあるのですけれども、東京もこれからかなり臨海部が活性化してくると思うのですが、その動きと、どういう役割分担を捉えていくのか、というところが、もう一つ重要かと思います。東京のインナーハーバーというか、そういうエリアの動きと、

横浜の都心臨海部を、ある程度比較し位置づけながら、検討していくことが必要であると思います。以上です。

【森地会長】

- ・ありがとうございます。

【藤野委員】

- ・話はまだ完全に整理しきれていないのですけれども、まず1ページ目、2050年を見て、このプラン、どういう横浜をイメージしているのかというとき、ここで書かれているような、「輝きある」、こういう単語は非常に良いかと思うのですが、そのためには、いつまでも「輝き続け」る必要があると思うので、こういうプランが、陳腐化しないよう、いつも輝いているかどうかのチェックが必要ではないかと。
- ・二つ目は、横浜のDNAの話、感動の話。9ページですか。横浜は、150年位の中で急速で発展してきたが、ここで書いてあるグローバル化という話は、皆、先進国を見て、横浜がどう魅力を、あるいは観光客の人達に来てもらえれば良いかという整理になっている。ここで、アジアの今に目を向けると、これら地域の発展が非常に急速に進行する中、横浜における観光だけでなく、産業にしる、横浜の150年間のいろいろな経験とか歴史とかを、一つの魅力ある資源と位置づけて、世界から人を呼び込むとか、企業を呼び込むとか、あるいは他国、他都市の行政機関の相談にも乗ってあげるとか、そういうことをすることで、横浜経済全体だとか、横浜の魅力を更に増していくと考えられる。もう少し長いタイムスパンの中での横浜のこれまでやってきたこと、苦勞してきたことと、やってきたことの魅力を同時に他国民に謳いながら、横浜のDNAを出すと、観光だけでなく、深さでも広さでも魅力を増すような状況になるのではという印象になる。
- ・あと一つ、8ページですか、企業の視点のところに、人材プール、人材豊富な項目で、都心臨海部が△になっているが、横浜は割と高学歴で、高所得で、それなりの訓練を受けた人材がいるかと私自身思っていたので、これはどういう意味なのかをお聞きしたいと思います。以上です。

【森地会長】

- ・ありがとうございます。どうぞ。

【山下委員】

- ・改めて一通り中身を見させていただいて感じる事として、神奈川県の中の横浜の役割、そして日本における横浜の役割というものが、どう位置づけていくのかというものが、全体的に分りづらくなっているのではないかと思います。これは、歴史的背景によりやむを得ないところもありますけれども、開港以来重要な役割を果たしてきた横浜ですが、現在の横浜が果たすべき役割というものが、どういふものなのか改めて考えておかなければならないと思います。資料の中に、様々な国家プロジェクトが横浜に集中しているとありますが、国内では横浜以外には、例えば福岡や東京などいろいろな都市で国家プロジェクトが認定されており

ますので、国家プロジェクトがたくさんあるという事実ではなくて、国にどうい
うことを期待されているのか、しっかりと考えておかなければならないのではない
かと思います。歴史的に国内の交通体系が大きく変化しており、ヒト・モノの
交流において港が中心にはなりにくくなっている中、日本における横浜の役割と
いうものが、しっかり明確になってこなければ、世界の都市のランキングの上位
にはなっていないと思います。ランキングの上位を目指すことを目標とする意味
はあまりないとは思いますが、今回のマスタープランの中でも目標となる順位
は掲げておりませんが、やはり、横浜がどういう役割を果たすのか、そして、ど
ういう都市ブランドをつくっていくのかということに繋がってくると思います
ので、ある程度そのようなことは意識してもらえればと思います。

- ・基本戦略についてですが、大体今、先生方がお話をされている中で感じたこと
ですが、基本戦略の1、2とですね、施策がどう連動してくるのかというところが、
なんとなく施策ありきで、基本戦略が若干後付けになる感じがありますので、そ
この連携をもう少し考えた方が良くと思います。そういう意味で、この中で抜
けているのは、生活者にとって都心臨海部というものがどういうものであるのか、
ということではないでしょうか。施策の中には入っているのですが、基本戦略の
中にはそういったキーワードが出ていないのが気になりました。

- ・私の分野である観光について少しお話しますと、やはり、横浜が世界のツーリス
トをどんな風に魅了しようとしているのか、というところを考える必要があると
思います。これは、もしかしたら、横浜市観光基本計画みたいのものが出て
いるのかもしれませんが、その辺りをマスタープランの中でも意識しておく必要が
あるかと思います。残念ながら、世界中のツーリストから、横浜が、旅先、つま
りデスティネーションとしては認知がほとんどないのが現状ではないかと思
います。我々の調査でも、訪日外国人観光客の訪問都市ランキングで言うと、京都、
東京、大阪のような順番となります。最近、大阪は世界中の観光客から支持され
ています。例えば、街中の商店街なんかも、日本のライフスタイルを感じられる
場所として、沢山の外国人ツーリストが訪れております。これは、大阪市の都市
戦略の中でも、ツーリストをどんな風に受け入れて、どう楽しませるのかとい
うことが、かなり上位概念として考えられている結果なのではないかと思
います。大阪市の様々な政策の中で外国人観光客誘致につながる施策が散りばめら
れているのだと思いますが、常に国内外のビジター（来訪者）を、楽しませるとい
う意識がなければ、都市ブランドにつながってこないのではないかと思
います。

- ・いずれにしても、東京オリンピック2020年に向けて、東京が都市ランキン
グでロンドンを抜いて1位になるという勢いを持っていると思います。ロンドンも
オリンピックを経て1位になりましたけれども、これからいろいろなものが東京
に集まる中で、横浜がどんな位置づけなのか問われると思います。横浜は、ど
ういうゲートウェイ機能を果たし、そして世界の中で何の分野におけるキャピ
タル（中心）となっていくのが明確にならなければ、市民や市内の企業において

新たなことへのチャレンジ精神とかイノベーションの機運が見えなくなるのではないか、という心配がございます。

【森地会長】

- ・ありがとうございます。神奈川県的位置づけにするか、首都圏の位置づけにするかということはありませんけれども。前にも申しましたが、アジアで今一番困っているのは、モノセントリック極集中の大都市になってしまっているのを、ポリセントリックに変えたい、ということ。横浜は、日本の中で見ると中々企業が来てくれない、というけれども、アジアの中じゃ稀有な副都心です。そういうことは、是非宣伝したいところ。冒頭で申し上げたときに、英訳するときに、このままじゃないよというのは、コンセプトとして、外国人にアピールするようにすると良いのではと思ってのことです。藤野先生が仰ったような、決して欧米を見ている訳ではないのですが、どこかそう見えてしまうのでしょうか。どうぞ。

【池邊委員】

- ・英語の話もありましたが、一番面白くないのは、12ページ。これを英語にしたときに、シティセールスに皆さん見えますか、ということなのです。こういう都市に2050年に向けてなります、こういう都市に投資をして下さい、という都市の企業戦略のときに英訳するとしたら、12ページが、入っている画像も含めて一番チャーミングじゃない。例えば、魅力増幅とか、強化拡充とかいう言葉、もちろん日本語ではそう言うのですが、じゃあそれをどう拡充するのか、何を拡充したら良いのかということが、相手が、例えば市民にとって、どう影響するのかということ。私はいつも、計画をするときには、口語で、わくわく感だとか言っているのですが、要するに、読む人間にとって、市民や企業者にとって、横浜に対してこれからわくわくしたいという気持ちを、掻き立てるようなものになっているかどうか。そういう視点でここを見直していただくと、12ページに書く言葉というものが、それぞれの単語が違ってくのではないかと。もっと輝いている言葉が本文には入っていますので、そこを工夫しないと、12ページだけを見て、2050年に良くなるかということ、ちょっとつらいなど。営業マンの視点になっていただければと思うのですが、そこら辺をもう少し配慮して、もう一度見直していただけると、多分少し変わってくるのではないかと思います。

【森地会長】

- ・ワーディングが悪いのかな。後ろの内容を見ると、ちゃんと書いてあるのだけれども。むしろ、新しい時代へのデザイン、環境もそうですけれども、内容は後ろを見るとそんなおかしくはないのだけれども。頭出しの言葉遣いが悪いのかもしれないですね。ちょっと工夫してみましょう。
- ・あと、これ（資料4）の冒頭に、詳しい情報を見てくださいというメッセージを、活字で入れておいた方が良いでしょう。これだけでは、意見の出しようがないでしょうね。
- ・齋藤さんはいかがでしょう。

【齋藤委員】

- ・はい。新しい街をつくっていくと同時に、活気がなくなってしまうような街が出てしまうと思うのです。14ページを見ると、都市軸、水際線へと向かう軸というものがあましてですね、恐らくこれは大通公園からこの場所に対して一本線があると思うのですけれども、例えば生活をしていると、関内と関外というものは、非常にこう歩いて移動しづらいのですね。アクセスが悪いというか。みなとみらいの桜木町と、野毛の方もそうなのですから、街をつくっていくと同時に、人がどう流れていくのかということも、もう一度しっかりと考えて、何かまちづくりに活かしていくべきではないかと思います。例えば、関内と関外を大通公園でつなげるとかですね。そうしたときに、関内と関外もそうですけれども、今後どうまちづくりを進めていくのかということを含めて、規制の緩和ですとか、規制をかけるとかを考えていかないと、恐らく数十年経ったときに、市庁舎の移転もそうですけれども、この街はどうなってしまうのかというのが少し心配かなと思いますので、そんなことも話し合っていけたらなと思います。

【森地会長】

- ・ありがとうございます。

【新井委員】

- ・先ほどの補足ですが、施策④の市民参加による持続的な価値とコミュニティづくりの部分で、教育の視点が一切出てこないことが気になりました。やはり、文化芸術を支える上では、必ず教育面のシステムの充実ですとか、そういう視点が必要になるかと思います。

【森地会長】

- ・ありがとうございます。どうぞ。

【鈴木委員】

- ・2点ほど。11ページのですね、みなと交流軸のところで、一番北側の、中央卸売市場から東高島駅地区の辺りに、教育・知的交流・医療・健康・居住という言葉があるのですが、そこがあまりイメージできなくてですね。せっかく市場を統合する話のけりがついて、中央卸売市場に集中する、ということになって。先ほど、池邊先生から食の話もありましたけれども、今、市場大橋というものを撤去して、なおかつ臨港幹線道路ができて、あの辺りを何かしかけていく千載一遇のチャンスだという風に思っています。そういう意味で、ここをもう少しはっきりとした方針を出すべきじゃないかと。でないと、何も起こらず、結局今、エキサイト、せっかく横浜駅周辺の整備をやっていく話が、東神奈川や京浜臨海部につながっていかないという、一番エッジの部分で、京浜臨海部と上手くつないでいかなければならない部分の、ビジョンが遅れてしまうのは、非常に問題だと思います。
- ・もう一点、関内・関外地区活性化推進計画であるとか、あるいはここ数年の都心部の議論の中で、少しずつですね、大学の話が出てきている。大学の人間が言う

なよ、というところもあるのですが、いくつかの都市で、やはりイノベーションを起こすプレイヤーとして、大学に期待している都市が非常に多いと思うのですね。既に横浜市の都心部の活性化の議論の中で、少しずつ出ているのですけれども。今回、大学の話だとか、それによるイノベーションの話だとかが出てきていないのはなぜか。これは質問です。

【森地会長】

- ・ありがとうございます。

【事務局】

- ・中央卸売市場の話につきましては、前回から何人かの委員よりご意見をいただいております。基本的な記載としてはあまり変えておらず、各地区の紹介のところ市場があることをはっきりと記載したのですが、中身のところの打ち出し方については、今日の段階では前回と同じ内容にしています。関係部署と少し調整し、引き続き検討したいと考えております。
- ・それから、大学の話については、鈴木先生がおっしゃるように、議論の中にも出ており、具体的な誘致の施設として、まだここに書き込める段階にはないかもしれないのですが、どこかに、まちづくりの中の一つの議論として取り上げるかどうかを、考えたいと思います。
- ・それから、先ほどご質問いただきました、8ページの人材が△になっているところを、コンサルタントの方から説明させていただきます。
- ・日本設計の田中と申します。先ほどご質問いただいた、8ページ目の、企業の視点を△にしている、人材のプールのところですが、それについては、従業員数がこのエリアにどれ位いるのかということで評価をしています。3ページ目の都心臨海部及び横浜市の統計データに、従業員数という項目がありますが、横浜市中でいうと、都心臨海部が約22%の約35万人がおり、それなりに人材としては居るのですが、右上の通勤・通学者の移動状況を見ると、首都圏における横浜ですとか、都心臨海部の位置づけでいうと、それでも東京の方に人材としては行ってしまうということを経済的に見て、△という評価をしております。

【森地会長】

- ・どうぞ。

【鈴木委員】

- ・今の話で関連することで、従業員が35万人いるということですが、10年間で3.5万人も減っているということを、しっかりと書いておいた方が良いでしょう。また年間商品販売額も、10年間で5,000億円、統計データの範囲では落ちているわけです。要するに、減少しているということを、前提のところを書くべきだと思います。

【森地会長】

- ・次のステップで、具体的にどういう人達を、企業を集めていくのかということ、やらなければいけないのですが、今、環境だとか医療だとか、漠然とした話しか

書いていないのですね。これはマスタープランですから、具体的な産業政策ですとか、まちづくりのプランの中で、それをはっきりさせて、企業誘致の活動をしなければいけない。本当はそこが見えてくると書きやすいのですが、そこがまだ見えていないので、このプランをベースにしながらも、横浜市の各部門内で具体的にどういう可能性があるのか、あるいはどういう夢があるのかを、是非リストアップして、その中から最終的に意思決定して、実際のポリシーにつなげるという。こういうステップですね。

- ・それから、できることなら、これに対して、産業界とかから、いろいろな人から意見が欲しいのですが、このまま出してもあまり意見は出てこないの、これを各部が自分達が持っているネットワークで、情報を集めたり、逆にお願ひしたり、こういうステップなのですね。マスタープランに書くことではないのかもしれませんが、事務局としては、是非、その辺を意識して欲しいと思います。どうぞ。

【藤野委員】

- ・今、鈴木先生が仰られたように、従業員数が減っているとか、年間商品販売額が減っているようなところもあると思うのですが、国際貿易と同じで、比較優位がないところからはある程度仕方ないのかと。逆に、横浜市の将来の成長を望むということになれば、高度職業人人材や外国人人材がどう活躍できるのか、あるいは今どうなのかとかいう視点が、かなり強まっているのではないかと思います。今回、臨海部に資源を集中して、成果を生むということになれば、その成果にふさわしいだけの人材とか、高付加価値が生み出されないと、無駄になってしまうので、そういうところに、いかに誘導していくのが重要になるのではと思います。単なる人数や販売額というよりは、もう少し、別の見方も必要ではないかと思ひます。というのは、非常に限られた場所で、2050年を目指してやろうということなので、やろうとする成果とそれに対応する指標を持っておかないと、まずいのではないかと思ひます。

【森地会長】

- ・ありがとうございます。

【佐々木委員】

- ・この都心臨海部再生マスタープランというものが、横浜市全体の施策の中で、どういう位置づけになっていくのか。はじめに戻るような議論かもしれないですが、そもそも、ここを、森地先生が仰った、世界都市としていくようなことはもう横浜市の中です承されていて、それをどうしていくのかという議論なのか、横浜市そのものの臨海部をどういうところに力を入れて、具体的な施策を進めていくのか、というそもそも論のところから議論していった方がいいのか。
- ・このパブリックコメントのパンフレットにしましても、例えばこれを見せられて、ご自由にご意見をとあつても、中々意見が出ないだろうと思ひます。そこで思ひ浮かぶのが森地先生が道路整備五ヵ年計画のパブリックコメントをつくる時につくられた、ボイスレポートという、歴史に残る資料です。いろいろな施策に

ついて、例えばAさんはこういう意見、Bさんはこういう意見、Cさんはこういう意見、いろいろな想定される意見を並べて、あなたのご意見はどれに近いですか、更に自由なご意見を言って下さい、という、そういうレポート、パブリックインボルブメントの手法をつくられたのですね。それに相当するような質問項目を、将来像の選択として、これについてどう思う、とか、いろいろな施策として①②③④のこれで良い、とか、①について、これをやるならこの方が良いよね、とかいうことを、少しメニューのようにして書かれていれば、市民もすごく意見が出しやすいと思うのですね。今の状態だと、この図面の中の、この点がやはり違うのではないか、というところまで読み込むような方以外は、少し意見が言えないような感じがするのです。

- ・私が申し上げたいのは、このパブリックコメントを、どういう位のウェイトをもってやっていくのか。それ即ち、この都心臨海部マスタープランの、そもそものビジョンのレベルから市民に問うのか、ビジョンは別の総合計画の中で決まっているから、世界都市を目指していくためにどうするのか、というところから聞き始めるのか、ということにも関わってくるような気がしています。なので、確認なのですが、世界都市にするということも、決まっていることは、もう決まっているということよろしいのでしょうか。

【事務局】

- ・政策局でございます。今、横浜市全体の施策については、中期計画について見直しを進めております。中期計画については、もともと2014年から2017年までの4年間ということでございますが、その中に、今後の未来のまちづくり戦略ということですね、2020年の東京オリンピック、あるいはここでいう第一段階の目標年次である2025年を踏まえて計画をつくっていかうと考えております。そこで、都心臨海部の再生については、未来のまちづくり戦略の一つの柱として、ここで議論されたことを踏まえながら、中期計画を策定していくということでございます。当然、横浜市としては、今は始めてではなく、昔から世界都市を目指して、どういう戦略をやっていけば良いかということ議論してきておりますので、ここで議論された内容については、中期計画に反映して、できるだけ分かり易いかたちで、整合性をとったかたちで、とりまとめを行いたいと考えております。

【森地会長】

- ・あと、一般市民の方は、よほど興味のある方以外は書いてこなくて、むしろ周辺で事業をやっている方だとか、そういう人達が具体的なことを書いてきてくださるのでしょね。この機会に、アイデアが出てくることを期待したいですね。

【金子委員】

- ・今、いろいろなご意見が出てきたかと思いますが、私も、冒頭にパブコメ用の資料について質問したのは、その辺でございまして、どう答えてもらうか、答え易く質問することなのですね。多分これ、たくさんの数をPRしながらパブ

コメ募集しても、数は想定できますよね。そんなに来ないなど。これではいけないので、まず答え易い、いくつかの質問を設けるべきではないかと。それから、自由記入欄をきちんとつくって、そこにはしかるべき意見を伺っては、と思います。それと、先ほどお話が出ておりますが、この概要版を見ておきますと、せっかく横浜が40年かけてやってきた都市デザイン活動に関する記述が、ほとんど見えない。これは、方向転換したというわけではないのですから、例えば、3ページの将来像である、横浜が目的地となる新しい都心、これはおおいに結構ですけども、その他の、基本戦略2の5地区連携によるまちづくり、このあたりにも、都市デザインという言葉を入れ込める要素がたくさんあると思います。景観、そしてすばらしいまちづくりが横浜の売りなのだと、それが横浜のこれからにつながるということをきちんと書いていただきたい。今からでもここは修正可能だと思うので、是非それをお願いしたい。

【森地会長】

- ・ありがとうございます。今日伺った意見で、これは当然修正をしていただきますので、もっと良くなると思います。たくさん、需要があるようになると良いと思います。パブリックコメントに関しては、もちろん意見を伺うというのはありますが、同時にこういう方針を伝えるという機能もあります。
- ・それから、具体的にコミットするような人達から沢山意見が欲しいですね。じゃあ、東京の企業にはどうするのか、とか。これは、多分ヒアリングするなり、経団連でネットワークをつくるのか、あるいは商工会議所で説明会をするとか、そういう話で、これは普通のパブリックコメントとは違いますよね。それは是非工夫していただければと思います。どうぞ。

【事務局】

- ・まずパブリックコメントについて、これはマスタープランという位置づけですから、どのようなアイデアがあるのかというのがポイントかなと考えておまして、この施策が良いか悪いかという聞き方よりも、もう少しこのようなアイデアもあるじゃないか、というところをできるだけ聞きたいと考えております。導入のところいくつか、というところもあるかもしれませんが、できるだけ、自由記入欄をつくって、アイデア募集のようなイメージで行いたいと考えています。
- ・それから、市場の関係ですとか、大学の関係ですとか、その辺を含めてですが、まだ庁内でも調整が出来ておらず、もう少し具体的に書けないかと調整しているところもございますので、それについては、また次回までに盛り込めるものについては、もう少し具体的に盛り込めるのではないかと思います。

【森地会長】

- ・聞き方として、選択肢的というよりも、どういう視点で意見が欲しいかという話を、もう少しクリアにしてあげると良いのではないかと。このアイデアで良いか、このワーディングで良いか、とか。それくらいは書けるはず。それから、たくさんご意見を下さいというところも、もう少し具体的に。ハガキの部分に書い

ても良いでしょうね。何らかの工夫をしましょう。ありがとうございます。

- ・その他、よろしいでしょうか。どうぞ。

【山下委員】

- ・こういう長期プランというものは、中身も大事ですが、いかに市民に関心を持ってもらうかというところも最大のポイントではないかと考えています。先ほど、わくわく感という話もありましたけれども、ここで掲げられた旗が、魅力的でなければ、このまま横浜に住み続けようとか、本社を横浜に移そうとか、横浜で起業しようとかいう人達が出てこないのではないかと思います。そういう意味では、どれくらい高い志や大きなビジョンが掲げられるにかは大事であり、そしてこのパブリックコメントがある意味盛り上がるくらいの、戦略的なPRをしながら、多くの市民を巻き込んでいくかということを是非考えていただきたいと思います。そのためには、今回のマスタープラン策定については、なぜ今都心臨海部を議論しているのかという、最初のボタンがかからないと、市民もなかなかよく分からないと思います。臨海部は特に横浜市民にとっては、本当に大切な資源、宝みたいな場所ありますから、これをどのように生かすことで、それによって世界一の都市になることを、目指して今やっているのだということを、冒頭にしっかりと伝えなければ関心が出てこないのではないのでしょうか。単に市役所が流れの中でやっていると思われてしまった瞬間に、今回の都心臨海部の再開発への関心が薄れますので、是非、そういった、一つのムーブメントになるように市民の関心を集めて、戦略を練る必要があるかと思っています。

- ・それから、是非もう一つ申し上げたいのが、これから国際会議をどんどん誘致していこうとお考えなのかもしれませんが、恐らく都市ランキング上位の都市と国際会議の熾烈な誘致合戦をするわけです。例えば、アムステルダムとか、シンガポール、ベニス、フランクフルト、それと横浜のような、世界都市の中で誘致合戦をするときに、主催者として、横浜で開催することがいかに魅力的かということが非常に重要で、そのときに必ず提案する企画書の中には、とにかく自分の街の自慢話がどれだけできるかがものすごく大事です。我々のまちはこんなことを目指しているのだ、こんなことが世界一なのだというのが、どの都市の企画書も、最初の部分に明確に示しています。やはり長期的なビジョンが明確に各都市の企画書の中に示されていますので、是非このたびのマスタープランで掲げるビジョンが、これからの国際会議誘致の際の、強力な武器になるよう、願っております。

【森地会長】

- ・ありがとうございます。港の話が後ろにあまり出ないのですよね。臨海部という話はあるのですが、港町といっている割には、施策としては、客船バースがあると、丸をしている位。例えば、ディズニーランドに行く船は、まだ運航していますか。もうやめてしまいましたか。昔は横浜に泊って、ディズニーランドに行くという話がありましたが。もう少し港の話を入れておかないといけないかもしれませんね。どんな風になるかは分かりませんが。物流の話は、向こう側にあって、

それを通じて何かを、先ほどの食の話もありましたが、ここで展開するという位置づけですよね。旅客の方は違う話でしょうし。なんらか、その位置づけがないと、港の話が本当なのか、と言われてしまう。

【池邊委員】

- ・この中のハンブルグの話が、多分ハーフェンを入れているのですが、ハーフェンでは、まさに港の他にオペラハウスがあります。港がある他に、そこにオペラハウスがあることを売り物にしている、その後背地には普通のオフィスが並んでいる。この、いろいろなMICEや何かを見ていると、またもや複合オフィスビルや、パシフィコをまたつくるのかと、そういうイメージだと、2050年まではやっていけないのだと思います。横浜は、日本大通りだとか、いろいろなところに様々な良い建築物がありますし、それそのものが魅力的で、ミッドタウンや、ああいうものとは違うものが横浜にはあるべきなので、みなとみらいのようなものがまた臨海部にできるような、2050年というのは、他都市と競争したときには、中期的にはアピールすれば来るかもしれませんが、長期的には、ソウルも北京もそういうものがあり、劣ってしまうので、そういう意味では、今の横浜の資源をいかに上手く生かして、港町であるという歴史を生かしていくのかという視点は、やはり入れ込むべきではないかと思えます。そこに、都市デザインとかデザインのポリシーといったものが、一つの目玉商品になって、ハーフェンもそれが一番の目玉商品になっており、そこにオペラハウスやホール、美術館があります。小さなアイデアに見えるかもしれませんが、大事なことだと思います。

【森地会長】

- ・国際会議場の話を、福岡の市長からお聞きしましたが、開催数は福岡が一番なのですね。横浜は、容量が足りなくて来れないと。福岡も足りないとのことで、随分と断っているとのことでした。ベーシックな需要はあるのですが、日本はそういうのを受け入れていないということですね。
- ・ありがとうございます。それではよろしいでしょうか。あと10分位ですが、その他、事務局の方からご連絡、あるいはご指摘はありますか。

【事務局】

- ・事務局からは特にございませんが、この後のお話をさせていただいてもよろしいでしょうか。今後のスケジュールといたしまして、今回いろいろご意見をいただきましたので、それらを踏まえまして、資料もまだ修正させていただきます。それから、マスタープランの意見募集につきましては、8月上旬位から、一ヶ月位の期間で、募集を行いたいと思っております。今日、つくりかたについてもいろいろご意見をいただきましたので、その辺の修正をさせていただきまして、できましたら森地会長にご覧いただいて、またご相談させていただきながら、事務局が進めさせていただけたらと思います。その進め方でご理解いただけますでしょうか。

【森地会長】

	<p>・よろしいでしょうか。ありがとうございます。</p> <p>【事務局】</p> <p>・ありがとうございます。それでは、本日の議事につきましては、これで終了とさせていただきますが、本日の意見につきましては、全てホームページにて、議事録として公開させていただきます。また、次回の審議会につきましては、今回の市民意見募集の結果と、内部の検討の結果を含めまして、修正をして、秋頃を目標に、次回を開催したいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。最後に、都市整備局長の平原より挨拶をさせていただきます。</p> <p>・長い時間、ありがとうございました。1回目、2回目の審議会のご意見を踏まえまして、今回構成を変えて、整理をしてみましたけれども、今一步というところだと思っております。ただ、手前味噌ではございますが、素材ですとか、着眼点ですとか、あるいはキーワードですとかは、良いところまでできているのでは、と思っております。今日は抜けている部分のご指摘を、いろいろいただきました。意見を踏まえまして、整理したいと思えます。それから、市民意見募集ということで、どれだけ市民の皆様、貴重な情報が正確に伝わるか、という工夫が必要かと思えます。その点、ご相談させていただきながら、できるだけ多くの意見が出るよう、工夫していきたいと考えております。ということで、引き続きよろしくお願いいたします。どうもありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
<p>資 料</p> <p>・</p> <p>特 記 事 項</p>	<p>資料1 横浜市都心臨海部再生マスタープラン審議会 委員名簿</p> <p>資料2 第3回横浜市都心臨海部再生マスタープラン審議会 座席表</p> <p>資料3 横浜市都心臨海部再生マスタープラン（仮称）検討資料</p> <p>資料4 概要版 横浜市都心臨海部再生マスタープラン（仮称）</p> <p>参考資料1 第2回横浜市都心臨海部再生マスタープラン審議会会議録</p>